

一 テーマ

児童・生徒一人ひとりが自己の高まりを実感できる国語教室
～ICT 機器を活用した言語活動の在り方の追究～

二 テーマ設定の理由

本委員会ではこれまで、日常の授業改善や活性化を目指し、教育課程研究協議会会場校の授業や各委員の実践について、意見交換や情報交換をすることで、国語科授業の在り方について学び合ってきた。

昨年までの取り組みを振り返り、改めて各委員が日々感じている授業の手応えや課題を話し合う中で、国語科における ICT 機器の活用について日々悩みながら実践をしているという点が委員の共通認識として挙げられた。令和3年度から本格的に導入されたタブレット端末について、各校でも実践が進められているが、まだまだ活用に不慣れな部分も正直あると話す先生も多い。そこで、今年度は国語科においてどのような ICT を活用した実践ができるかということに焦点を当てて、様々な言語活動について学び合い、子どもたち自身が高まりを感じられる国語科授業について追究した。

三 研究の経過

年度当初、情報交換する中で、本年度は特に「言語活動の在り方」「ICTの有効活用」が話題となった。これらのことを、教育課程校の授業実践や子どもたちの具体的な姿から学び合ってきた。

期日	内容 情報交換の内容	場所
5月2日 第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画作成 日々の国語授業についての情報交換 ICT 活用について 学年ごと目指していきたい子どもの姿について ICT 機器と書く活動の関連について 学習活動の明確化について など	上小教育会館
7月6日 第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> 小学校教育課程会場校事前授業参観、研究会 日々の国語授業についての情報交換 ICT 活用について 言語活動の高まりについて グループ活動について など	神川小学校
8月28日 第3回委員会	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程研究協議会計画作成 日々の国語授業についての情報交換 低学年での ICT 活用実践について 中学校における書く活動に焦点をあてた ICT 活用実践について など	各校 (オンライン)
9月9日 教育課程研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> 国語研究委員実践発表 クロームブックを活用した実践 について 日々の実践の共有	神川小学校 第二中学校
11月27日 第4回委員会	<ul style="list-style-type: none"> 教育会総委員会 研究のまとめ、情報交換、来年度へ向けて 	上小教育会館

四 研究内容

1 神川小学校の実践から

(1) 単元名 第5学年 「カレーライス」

(2) 単元設定の理由

本学級の児童は、「なまえつけてよ」の学習で、物語文は人物の行動や心情を中心に読み、描写から登場人物の気持ちの変化を読み取るということを意識して学習してきた。しかし、描写から登場人物の気持ちを読み取る力が不足しており、考えの根拠となる言葉や文を示すことを難しく感じている児童も多くいる。

そこで、中心人物と対人物が明確で、物語の中の出来事がはっきりして物語の進行にそって揺れ動く登場人物の心情の変化に着目した「問い」をもちやすい「カレーライス」を通して学んでいきたい。会話や行動だけでなく、「ぼく」の心の中の言葉や暗示的な表現から、「ぼく」の心情を読み取ることができる箇所を見つけ、想像も豊かにその時のぼくの気持ちを交流する活動を繰り返し、子どもたちが自分の力で本文中の描写を根拠とし、登場人物の心情の変化を読み取ることができるようにしたいと考え、本単元を設定した。

(3) 単元の目標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。〔知識及び技能〕(1)オ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ・自分の経験などと重ね合わせながら、登場人物の心情を理解し、感想をもとうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕 |
|---|

(4) 単元で取り上げる言語活動

物語を読んで、理解したことに基づいて、感じたことや考えたことを文章にまとめる。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

(5) 単元の評価規準・評価方法等

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○様子や言動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)	○登場人物の相互関係や心情の変化などを、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ○友だちと交流することにより、自分の考えを広めている。(C(1)カ)	○登場人物の相互関係や心情を理解し、自分の経験と重ねて、共通点や相違点を探しながら読もうとしている。

(6) 指導と評価の計画 (全6時間)

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準	時間
第一 次	1 カレーライスを読み、感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初発の感想を書き、発表しあう。 ・ form で集約した子どもたちの感想をテキストマイニングし、このお話のキーワードを整理する。 	[知識・技能①] <u>タブレット(スライド)</u> ・様子や言動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしているかの確認。	1
	2 キーワードを整理する。			2
第二 次	3 場面ごとにエピソードを捉え、あらすじをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ぼく」の心情や言動、そのきっかけとなったお父さんの言動を整理する。 ・ カレーライスの味を表す言葉から象徴的イメージやその効果を捉えさせる。 ・ 会話や行動、暗示的な表現などの描写を想像しながら読むように指導する。 ・ 登場人物の気持ちの変化を視覚的にとらえるようにすることで、登場人物の心情を理解し、感想を書くようにする。 	[思考・判断・表現①] C(1)イ] <u>タブレット(スライド)</u> 登場人物の相互関係や心情の変化を捉え、描写をもとに考えを整理できているかの確認。 [思考・判断・表現②] C(1)カ] <u>ノート</u> 友だちと交流することにより、自分の考えを広めているかの確認。	3
	4 場面ごとの「ぼく」の心情を捉える。 ・各場面で「ぼく」の心情が分かる表現を探し、ひろしの気持ちを考える。 ・言葉のもつ象徴性や「表現上の効果を考える。			4
	◎単元を貫く問い 「ひろしは、お父さんのことを怒っている？怒っていない？」			5
	(1) お父さんウィーク前日から1日目の夕食			4
	(2) 2日目から3日目の日中			5
(3) 3日目の夕方から夕食【本時】	5			
第三 次	5 単元を通しての感想を書いて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を振り返って、感想をまとめる。 ・ 友だちとの共通点や相違点を捉えるようにする。 ・ テキストマイニング 	[主体的に学習に取り組む態度] <u>タブレット(スライド)</u> 登場人物の相互関係や心情を理解し、自分の経験と重ね合	6
6 キーワードをもと				

次	に、学習を振り返る。	し、学習の始めと終わりのキーワードを比較する。 ・ 学んだことを自覚するように促す。	わせて、共通点や相違点をもとに、自分の考えが書けているかの確認。
---	------------	---	----------------------------------

(7) 本時案

①主眼

お父さんウィーク 1日目から2日目の描写に基づき、ひろしの気持ちを考えてきた子どもたちが、3日目の夕方からの気持ちを考える場面でカレーの味や食べ方などの暗示的な描写に着目し、自分の意見をスライドにまとめ、友達と意見を交流する活動を通して、『甘口』『中辛』に込められた意味やカレーの味が「ぼく」の心情を表していることを考えることができる。

②本時の位置(全6時間扱い中 第5時)

前時：お父さんウィーク 2日目から3日目の日中の描写に基づきひろしの気持ちについて考える。

次時：単元を通しての感想を書いて発表する。

③指導上の留意点

第二次において、個人の意見はグーグルスライドを活用し全体共有し、グループ活動ではそのスライドを利用して、「ぼく」の心情や言動や、そのきっかけとなったお父さんの言動を整理する。

④評価規準

- ・ 登場人物の相互関係や心情について、描写をもとに、自分の考えをまとめることができる。
- ・ 自分の意見と友だちの意見を比べながら、登場人物の行動や会話を通して、暗示的に表現されたカレーに込められた意味を考えることができる。

⑤展開

過程	学習活動【学習形態】	○予想される児童の反応	・指導／支援 評価	時間
導 入	1 前時をふりかえる。 【全体】	○怒っている。 ○怒っていない。 ○少し怒っている。	・ 前時の感想を見返すように促す。	5
	Which 型発問 学習問題 【ひろしは、お父さんのことを怒っている？怒っていない？】			
	2 問題を把握する。 【全体】 3 見通しをもつ。 【全体】	○怒っていないと思う。 ○教科書から見つけよう。		5
学習課題 お父さんウィーク三日目の夕方から夕食までで証拠を見つけよう。				

展 開	<p>4 自分で考える。 【個人】</p>	<p>○「何かつくるよ。ぼく、作れるから。」今まで口をきいていなかったのに話をしているから怒っていない。</p> <p>○「なんだかこっちまでうれしくなってきた。」お父さんが喜ぶ姿を見て、自分までうれしくなったから怒っていない。</p>	<p>○描写を見つけ、蛍光ペンで引くようにする。</p> <p>○ひろしがどのような気持ちになっているのかを想像するように促す。</p> <p>○気持ちを表す描写に線を引き、怒っているか、怒っていないかを問う。</p>	10
	<p>5 グループで話し合う。 【グループ】</p>	<p>○確かにこういう考え方もあるな。</p> <p>○こういう考えもあるけど、やっぱり自分は・・・って思うな。</p>	<p>○ゲーグルスライドを使いながら、意見を交流する。</p>	10
	<p>6 ゆさぶり発問 「ぼくたちの特製カレーは、ぴりっとからくて、でもほんのりあまかった」と「ぼく」が感じているのは、なぜだろう。 【グループ】【全体】</p>	<p>○本文中に出てくるカレーの味は、それぞれ「甘口」は「子ども」、「中辛」は「大人」を表しているのかな。</p> <p>○「ぼく」は「中辛」のカレーを作りたいかと思う。</p> <p>○「あまったくてしかたない」のあまいと、「ほんのりあまった」のあまいは違うと思う。</p>	<p>○カレーの味など暗示的な描写に気づいている児童の意見が出たところでゆさぶりの発問を行う。</p> <p>○『甘口』『中辛』に込められた意味やカレーの味や食べ方が「ぼく」の心情を表していることがわかるよう問い返す。</p> <p>○暗示的な描写に気づかない子どもたちが友達の意見と比べることことで、それに気づけるようにする。</p> <p>評価</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 タブレット(スライド)</p> <p>登場人物の相互関係や心情について、描写をもとに、自分の考えをまとめることができる。</p> </div>	10

終末	<p>7 本時をふりかえり、次時の見通しをもつ。</p> <p>・次時は単元を通しての感想を発表する。</p>	<p>○「びりっとからくて」は、お父さんが「ぼく」のことを少し大人として認めてくれたことを表している。</p> <p>○「ほんのりあまかった」は、お父さんに認められた「ぼく」の嬉しさを表している。</p> <p>○次はみんなの感想を聞いてみたい。</p>	<p>〔思考・判断・表現②〕</p> <p><u>ノート</u></p> <p>自分の意見と友だちの意見を比べながら、登場人物の行動や会話を通して、暗示的に表現されたカレーにこめられた意味を考えることができる。</p>	5
----	---	---	---	---

⑥本時見ていただきたい点

- ・子どもたちが暗示的な描写を根拠に、ひろしの気持ちを考える姿があったか。
- ・一人で考えたことを基に全体で意見を交流したことは、自分の思いや考えを広げることができたか。

(8) 実践から

神川小学校での実践について国語委員会の研究テーマに沿って考察する。考えの根拠となる言葉を文中から見つけるという本単元で児童に身につけてほしい力を授業者が明確にしていることで、単元を通じて児童が自己の高まりに気づくきっかけになったと推察できる。

また、クロームブックにおいて子どもたちの意見をマイニングしたというのもお互いの意見が可視化され、自分の意見に似た意見があることで自信を持ち、また自分に無い意見を見つけ、考えを広げることにつながったといえる。ICT活用によって交流の幅が広がったことが考察できる。

2 上田第二中学校の実践から

(1) 研究テーマ

◇全校研究テーマ

「ことば」を育む授業の創造 ～「話す場」から「語る場」へ～

◇国語科研究テーマ

「根拠を明確にして自分の考えをもちながら学ぶことを通して『ことば』を豊かに育む授業

(2) 本時の授業の視点

- ①「検証Ⅰ」の効果を、根拠を明確にして考えたことは、指導と評価の一体化につながったか。
- ②自分の考えを口頭で語ることや、最後に文章としてまとめることで語る場面を取り入れたことは、自分の考えを練り上げたり再構築したりすることにつながったか。
- ③ICTの効果的な使用ができていたか。(スプレッドシートの活用・Google フォームの活用等)

(3) 単元名

論の展開に着目し、その効果を考えよう。『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』

(4) 教材 1年『「言葉」をもつ鳥、シジウカラ』

(5) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事象や行為を表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (1)ウ	①「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 C(1)ア ②「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 C(1)エ	①進んで、文章の構成の効果について根拠を明確にして考え、学習の見通しをもって、自分の考えを口頭や記述で表現しようとしている。

(6) 単元の目標

- ①事象や行為を表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)ウ
- ②文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)ア
- ③文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)エ
- ④言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

(7) 単元展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、読み方の難解な語句について全体で確認する。 意味が難解な語句に線を引き、全体で確認する。 段落の数を確認し、役割ごとに5つの部分に分けて、文章の構成を確認する。 筆者が立てた「仮説」を全体で確認する。 授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み方が分からない単語にはルビをふるように伝える。 読解に必要な難解語句に関しては、全体で意味を確かめて共有する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〔知識・技能①〕 ワークシート ・難解語句について、意味を記述している。 </div>
2	<ul style="list-style-type: none"> 「仮説の検証I」までを音読する。 「仮説の検証I」を、検証の目的・検証の方法・結果・考察や解釈に分けて、要旨を表にまとめる。 授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの縦軸と横軸に書かれてあるものに注目して、正確にグラフを読み取ることができるようにする。 結果の部分をもとめる際は、グラフ1・2・3と文章を対応させながら確認する。 要旨をもとめる際は、必要な情報のみを残すように伝える。 	

<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10段落を読み、「仮説の検証Ⅰ」の問題点を確認する。 ・「仮説の検証Ⅱ」までを音読する。 ・「仮説の検証Ⅱ」を、検証の目的・検証の方法・結果・考察や解釈に分けて、要旨を表にまとめる。 ・次時以降考える「問い」を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>仮説の検証Ⅰ（「6段落～10段落」）があることで、どのような効果があるのだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点があることで、仮説の検証Ⅱの必要性が出たことを全体で共有する。 ・実験の様子の動画(教科書QRコード)を全体で見て、実験の様子を視覚的に捉えられるようにする。 ・「検証Ⅰ」と同様に、グラフと文章を対応させながら確認する。 ・「検証Ⅰ」(段落6～10)の存在意義について問い、次時以降の「問い」とする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果と考察を関係づけて捉え、要旨を表にまとめている。 ・要旨を表にまとめているか確認。 </div>
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時立てた「問い」について、Google フォームに自分の考えを書く。 ・これまで学習してきたことをもとに考える。 ・次時は、他の人の考えにも触れながら、自分の考えを文章にまとめて書くことを確認する。 ・授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用意する。 ・「根拠」と「効果」の2つの観点を示し、それぞれ記述するように指示する。 ・6～10段落全体で考えてもよいし、特定の段落に注目して考えてもよいことを伝える。 ・叙述を「根拠」にしたり、自分の考えを「根拠」にしたりして、「効果」を考えるよう促す。 ・机間指導して様子を観察しながら、必要な声掛けをする。 (「効果」だけ書いている生徒には、「どうしてそう思うの」と問いかける。 ・書くことができない生徒には、検証Ⅱの問題点はないか考えさせたり、検証Ⅰから分かったことは何かを考えたりしてみようと伝えることで、考える視点を与える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔主体的に取り組む態度①〕 フォームへの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで、「検証Ⅰ」の効果について考え、記入している。 </div>

<p>5 (本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認して、本時の学習の見通しをもつ。 ・「検証Ⅰ」の効果についての考えを交流して、自分の考えをまとめることを確認する。 ・各自の考えの一覧表を見ながら、観点に沿って考えを共有する。 ・観点①②について、自分で考えを聞きたい人を選択して聞きに行く。 ・友の考えも参考にして、「問い」に対する自分の考えを Google フォームに文章でまとめる。 ・授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時書いた各自の考えをスプレッドシートにまとめた一覧表を生徒に渡す。 <p>※資料1参照</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>観点①：根拠は似ているけど、違う効果を書いている人 観点②：効果は似ているけど、違う根拠を書いている人</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・観点にあてはまる人がいない場合は、自分で観点を決めて聞いてみるよう伝える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 フォームへの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証Ⅰの効果について、友の考えも参考にし、根拠に基づいて自分の考えを文章にまとめて記入している。 </div>
<p>6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「検証Ⅰ」の効果について全体で共有する。 ・論の展開の効果について考えたことを書く。 ・単元の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時書いた各自の考えをスプレッドシートにまとめた一覧表をもとに、「検証Ⅰ」があることの効果について、分類・整理する。 	

(8) 本時の学びの様子

①学習問題

学習問題：検証Ⅰ（6～10段落）があることで、どのような効果があるのだろう。

②児童の様子

- ・I生とY生の姿から

前時でそれぞれ自分の考える「検証Ⅰがあることの効果」を記入した生徒たちが、他の人との意見交流することを通して、自分の考えを練り上げて再構築する場面。

前時でY生は、「仮説2をわかりやすく説明することが、検証Ⅰの効果だと思う。そう考える根拠は、仮説Ⅰとセットで仮説Ⅱの実験の結果があったほうが話がわかりやすくなると思ったから。仮説Ⅰがないと話が繋がらないと思うから。」と記述していた。

一方、I生は「結論づけるときに問題点を出すことで更に読者を納得させることが検証Ⅰの効果だと思う。」と記述していて、その根拠までは書けなかった。

考えの異なる二人であったが、Y生がI生に話しかける形で意見交流が始まった。

Y生「仮説1と2はセットだと思う。」

I生「問題点があった方が分かりやすい？説得力が増すってことじゃない？」

Y生「裏付けてこと？」

I生「そうだね。」

二人はその後それぞれ、自分の考えをまとめる場面で、次のように記述した。

Y生「検証1があることで結論付けることや、話の繋がりをもたせることができます。検証1がないと説得力がないため読者を納得させることが難しく、話も繋がらないため、わかりにくいと思ったからです。」

I生「検証2をわかりやすくするために、1と2をセットで説明して結論をだすときに読者が納得できるようになっている。」

ここからわかるように、それぞれの考えの中で出てきた「納得させる」や「仮説1と2はセット」というキーワードを、自分の考えをまとめる際に使っており、語り合いによって、自己の考えの変容や深まりが見られた。

・K生の様子から

前時に自分の考えを根拠に基づいて書くことが困難だったK生も、意見交流によって他の人の意見を聞くことで、自分の考えを深め、最後には根拠に基づいて文章にまとめる姿も見られた。

(前時：検証Iがあったほうがわかりやすい。

→本時：検証IIだけになるとなぜ「ジャージャー」が蛇を表す言葉なのかわからなくなったり、蛇を表す鳴き声かわからないまま話が急に飛んでしまったりする。だから、検証Iがあった方がわかりやすい。)

以上のことから、自分の考えを口頭で語ることや、最後に文章としてまとめることで語る場面を取り入れたことで、自分の考えを練り上げたり再構築したりすることにつながったであろうと考える。今後は更に、「語る」ことの効果を追求していきたい。

③授業者反省

- ・前時と本時の文章のまとめ方を統一すればよかった。生徒の変容が分かりやすい。
- ・最後のまとめの際には、スプレッドシートに書かせることで、他の人の考えも参考にしながら書けたので、その方が生徒たちは記述しやすかったであろう。
- ・意見交流の「観点」を定めたことがあまり活かされていなかったなので、観点を示し方をもう少し工夫する、あるいは観点を示さずに自由に意見交流をさせた方が、より活発な交流が見られたかもしれない。
- ・最後のまとめの時間が取れなかったのが残念。生徒一人一人が「表現の効果」について考えられたものの、教師がねらいとしている部分については、全体で共有できるとよかった。

(9) 実践から

第二中学校での実践について国語委員会の研究テーマに沿って考察する。自分の考えを語るということに対して苦手意識のある児童も多い中で、スプレッドシートを活用することで自分の意見に類似した意見を見つけ、語る契機となったのではないかと授業の様子から子どもの高まりを感じることができた。また、「根拠に基づいてまとめる」という身につけたい力の面から考えても、お互いの意見を知ることでそれぞれどこに根拠を見出しているのかというところが可視化され、有効的であったと考える。

五 研究のまとめと課題

教育課程会場校の授業を参観したり、各委員の実践を発表したりする中で、国語授業改善に向けて学び合うことができた。その中で、本年度特に話題となった点について、以下にまとめる。

(1) 「授業実践の様子から」

児童相互でお互いの意見を見合う仕組み（神川小学校）や、根拠について自分の意見を書き、仲間と比較する学習活動（第二中学校）など、子どもたちの「伝え合う」必要感や目的意識をサポートする役割として ICT 活用が有効であることが挙げられた。また、特に文字を書くことに抵抗のある児童・生徒にとっては、キーボードやタッチ操作時に音声入力など自分の特性に適した方法を用いて、自分の考えを表現することができるのも ICT 端末を活用する大きな魅力だと思う。両校の実践から ICT を活用し、友だちの考えを自由に閲覧したり、参考にしたりできることで、学ぼうとする意欲を高めることにつながっていると感じる。

(2) 「委員の実践発表から」

教育課程研究協議会の午後の研修では、国語委員による実践発表を行った。実践発表では、「話す・聞く」「書く」「読む」など国語科の様々な領域に合わせて提案がなされた。「話すこと・聞くこと」でも「書くこと」「読むこと」でも、ICT を活用することで教員、児童生徒双方にとって意見を共有したり、話し合いのきっかけとなったりするという点において有効であるという提案がなされた。

一方で「書く」という学習領域において、手書きでの学習も重要であるという意見も挙げられた。自分の書く文章を深めるため、タブレットに頼りすぎずハイブリットの考えでいく必要性を痛感した。今後実践はさらに進むと思うが、授業のねらいを明確に教師と児童生徒が持ち、ICT 機器活用の良さを授業のねらいに沿って、どの場面どう使うかをよく吟味していきたい。また、活用が進む中で機器の活用について教師間で得手不得手が出てくると思う。研修の中で、実際に端末を用いてお互いの実践を見合う場面を設けたが、「新しいアプリケーションの操作方法を教えてもらい、大変参考になった」、「同じアプリケーションでも新たな活用方法を知ることができた」などの意見が挙げられた。意識的に実践を見合う機会を設けることで、教師の習熟度もあがっていき、ひいてはより児童生徒にとって学びやすい学習環境の構築につながっていくのではないかと感じた。